医学生の“集中治療医”認知度

細川 康二 志馬 伸朗

広島大学大学院救急集中治療医学 (〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3)

Key words: ①intensivist, ②education, ③medical student

背 景

集中治療医は、医療機関の中央部門としての集中治療室 (ICU) で医療行為などを行う医師を指す^{1)~4)}。集中治療室に市民が直接受診することはないため、集中治療医が、それほど社会から認知されていない可能性がある。特に、医学生における認知度の低さは、集中治療医を目指す医師と集中治療医学発展の阻害因子となることが危惧されるが、現状は明らかでない。

方 法

今回、我々は、集中治療医の認知度について、関連の強い専門医の認知度と比較調査した。方法は、著者 (志馬) が過去に担当した学生講義でのアンケート調査の解析である。調査は2012年から2017年の5年間で、対象は、西日本の2つの政令指定都市に位置する3つの異なる国公立大学医学部医学科、1つの救急救命士養成所、そして、1つの私立理科学部である。回答者の平均年齢は各群ともに20~21歳を中心に、20歳代前半と考えられる。調査項目は、集中治療医、麻酔科医、救急科医という専門医職種を知っているか、具体的な業務内容 (選択肢) とした。調査は、救急医学の单元の中で行われる講義の前に行い、講義の内容は結果に反映されないものである。回答は無記名で任意とした。統計学的検定にはPearsonのカイ二乗検定を、

統計ソフトはRを用いた。

結 果

総回答数は、1,156で、医学科学生からの回答数は、512であった (Table 1)。全体として集中治療医という職種を知っているのは、41%であり、麻酔科医、救急科医に比して有意に低かった (Table 1: それぞれ、 $P = 0.01$, $P < 0.01$)。医学科学生に限ると、麻酔科医や救急科医をほぼ知っているが、これと比較して、集中治療医を知っているものの割合は医学科以外の学生と同様に約4割と低い。

集中治療医の業務内容についての質問に対しては、集中治療医を知っているが具体的な業務を知らないものが回答者の15%であり、集中治療医についてその業務も含めて知っているものは、回答者の26%になる (Table 1)。これに比して、麻酔科医を知っているが具体的な業務を知らないものが、5%であり、その業務を含めて麻酔科を知っているものは88%、救急医については、その業務も含めて救急医を知っているものは64%となる (Table 1)。

集中治療医を知っていると回答したものの中では、「ICUで働く」や「重症患者の治療を行う」という回答が多い反面、「院内急変への対応」や「医療の質と安全性を担保する役割」についてはほとんど認識されていない (Fig. 1)。

How medical students recognize the “intensivist”?

Koji Hosokawa, Nobuaki Shime

Department of Emergency and Critical Care Medicine, Graduate School of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University (1-2-3 Kasumi, Minami-ku, Hiroshima, Hiroshima 734-8551, Japan)

J Jpn Soc Intensive Care Med 2019;26:43-4.

Table 1 Known or unknown about specialists

Specialist	All (n = 1,156)	Student category	
		Medicine (n = 512)	Non-medicine (n = 644)
Intensivists	472, 41% (173, 15%)	209, 41% (84, 16%)	263, 41% (89, 14%)
Anesthesiologists	1,071, 93% (57, 5%)	503, 98% (13, 3%)	568, 88% (44, 7%)
Emergency physicians	982, 85% (237, 21%)	497, 97% (90, 18%)	485, 75% (147, 23%)

The values given with the numbers of those who know the specialists exist, and percentages; The values in brackets show the numbers of those who know but do not know the work concretely, and percentages. Non-medicine includes students in emergency life-saving technician or bio-science.

Fig. 1 Understanding of works of intensivists

考 察

医学科学生において集中治療医の認知度が低かったことは、学生教育上の重要な視点となる。集中治療医学教育の量や内容については、大学間で大きな格差があることが指摘されている⁵⁾。また、文部科学省による医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)においても⁶⁾、集中治療医学に関する記載は極めて乏しく、周術期管理の一部に“集中治療室”の文言が見られるのみである。具体的な業務内容を含めた専門医の認知度として、麻酔科医が最もよく知られていたが、その原因が講座としての歴史の長さなのか、それ以外の社会的背景または専門医数に関わっているのかはわからない。そのため、今後は“集中治療医学”を冠する医学講座の存在や、専門講義または実習の内容と量が集中治療医の認知度向上に寄与するかについて、複数の教育機関で調査し評価する必要がある。

わが国の集中治療医の多くは麻酔科や救急科などの基盤専門医を持ち、その上でsupra-specialtyとして発展してきた⁷⁾。現在進んでいる医師の専門医制度改革の結果として、集中治療専門医の位置づけが明確化することにつれ、認識は変化する可能性があるが、サブス

ペシャリティとしての集中治療医に進める主たる診療科が限られる点からも、医学科学生の集中治療医の認知度の低さを念頭に対応する必要がある。

本調査は1名の教官による講義の機会を選択したため、調査対象に偏りがある。調査は、複数の政令指定都市の学校で行ったが、集中治療を含む医療資源の普及の地域差による影響を受けるため、他地域での認知度は異なる可能性がある。また、専門医の業務内容は選択肢方式としたが、この選択肢は筆者らが事前に決めたものであり、多様な認識の拾い上げを制限している。

本稿の全ての著者に規定されたCOIはない。

文 献

- 1) 氏家良人, 西村匡司, 横田浩史, 他. 座談会 集中治療を取り巻く諸問題(特集 集中治療の進歩). 日医雑誌 2016;144: 2013-24.
- 2) 西村匡司. 集中治療専門医の社会的存在価値. 日集中医誌 2014;21:134-5.
- 3) 岡元和文. これからの集中治療医のあるべき姿とは: 集中治療科医への道(特集 集中治療医学の課題と将来の展望). ICUとCCU 2013;37:95-100.
- 4) 氏家良人. わが国における集中治療専門医のあり方について. 救急医療 2013;37:375-8.
- 5) 後藤幸子, 藤野裕士, 水谷太郎, 他. 医学教育における集中治療医学に関する講義・実習時間等の実態調査. 日集中医誌 2013;20:299-302.
- 6) 文部科学省高等教育局医学教育課. 医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版). 2017年3月31日. [cited 2018 May 15]. Available from: http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiledfile/2017/06/28/1383961_01.pdf
- 7) 永松聡一郎, 幸部吉郎, 山下和人, 他. 集中治療専門医のバックグラウンドとサブスペシャリティ. 日集中医誌 2012;19: 97-8.

受付日 2018年 5月22日

採択日 2018年 7月 3日